

世界史研究推進委員会

共同研究「高大連携の試み」および「世界史への興味・関心を育む教材・指導法の研究」経過報告

寒川高校 根岸洋史

世界史研究推進委員会は、2012年度もおおむね二月に一回のペースで、横浜市立みなと総合高校、藤沢総合高校などを会場に開催しました。会場を御提供いただいた関係各位の皆様には、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

なお2012年度の研究大会での発表は、次の通りです。

秋季研究大会（2012年10月24日 かながわ県民センター）

「イエドヴァブネ事件―第2次世界大戦中のポーランド―」 福本 淳（栄光学園）

春季研究大会（2013年3月6日 地球市民かながわプラザ）

「近代世界システムをどう教えるか」 鈴木 健司（七里ヶ浜）

また2012年4月27日より29日の日程で、韓国の梨花女子大学にて開催されましたAAWH（アジア世界史学会）では、「19世紀のアジア史をどう教えるか」と題して、石橋功（藤沢総合）、澤野理（大師）、神田基成（鎌倉学園）、柴泰登（桐蔭学園）の4名の先生方が、問題提起と研究発表を行いました。

それから恒例の、夏季「高大連携の試み」も、12年度も栄光学園高校の協力のもと、2012年8月6日～8日の3日間、「18世紀のアジアをどう教えるか」をテーマに、まず午前中、矢野慎一（柏陽）、福本淳（栄光学園）、杉山登（逗子開成）、桃木至朗（大阪大学）、秋田茂（大阪大学）、杉山清彦（東京大学）の各先生方による模擬授業と講義が、栄光学園、清泉女学院、湘南、県横須賀、柏陽の生徒諸君を対象に行われました。また午後の研究討議では、県内外の多くの公立・私立高校、大学関係の先生方の御参加を頂き、非常に有意義な研究討議と研修を行うことが出来ました。

この高大連携事業は、今年度は全国歴史研究協議会（全歴研）神奈川大会の開催のため休止とさせていただきますが、2007年度からの足かけ6年にわたる事業の成果と反省、また今夏の全歴研神奈川大会の内容を加え、次年度に内容をさらに充実させていく所存であります。

一昨年度からはじめた講読会ですが、今年は『世界経済の歴史―グローバル経済史入門』（名古屋大学出版会）を読み進めております。経済学の分野からの世界史へのアプローチとして非常に興味深く、また歴史的事象への経済学的な視点からの解釈と歴史学的な視点からの解釈との違いなどをめぐって、毎回の委員会では活発な討議が行われております。もし興味・関心がお有りの先生がおられましたならば、是非参加・ご教示いただきたく思っております。

諸先生方におかせられましたは、校務ご多忙の折とは拝察いたしますが、今後とも研究大会並びに社会科部会各委員会、また全歴研大会への参加をよろしく願いたします。